

# 触らないリハビリテーション

- 退院後には触ってもらえない
- 患者さんの不安
- 触らなくても生活を維持できる

# 触るリハビリテーション

- 心身機能の改善には必要
- ハンドリングは重要
- 触らなくてもできることが必要

# 「触る」ことの功罪

- 触ってもらおう安心感
- セラピストとしての充実感
- 触ることがリハビリテーションとの誤解

# 活動と参加へのために

- 心身機能の評価は検査測定で出来る
- 活動と参加を評価してる？

# 活動と参加へのために

- リハビリテーション実施計画書の活用
- 定期的な目標の達成度合いの確認
- 1週間、1カ月、更新月

# 活動と参加へのために

- 個別性の評価  
ADL動作ではなく行為の評価と  
アプローチ
- 話すこと
- セラピストから仕掛ける事

# 活動と参加へのために

「動き出す」「やりたくなる」「じっとして」いられない、そんな環境づくりをしていますか

# 多領域連携に必要なこと

- マネジメントはリハビリテーション専門職の役割
- 「先生」からの脱却
- リハビリテーションは理学療法士や作業療法士、言語聴覚士だけがするものではないということ